

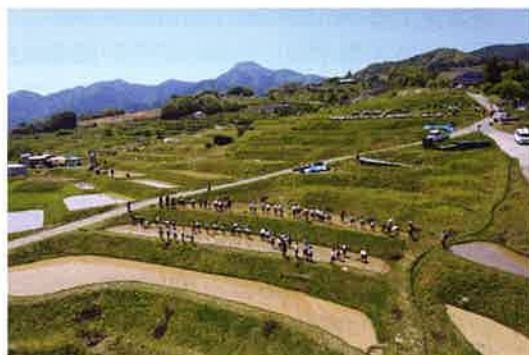
# 棚田学会通信

第63号 目次 2021年2月25日発行

重要文化的景観「姨捨の棚田」の現状	2
稲刈棚田の現況と景観保護	3
10年目を迎えた重要文化的景観「櫻原の棚田」選定の効果と課題	4
坂元棚田「日南のマチュピチュ」	6
2020年 棚田学会大会シンポジウム概要	7



写真上：稲刈棚田  
 写真中央：坂元棚田  
 写真下左：姨捨の棚田  
 写真下右：櫻原の棚田



棚田の景観が重要文化的景観に選定されたことを契機に2011年8月の棚田学会大会のシンポジウムにおいて、「重要文化的景観」に選定された棚田を取り上げ、棚田景観の文化的意義・価値に注目して過去から未来を見据えて棚田景観についてシンポジウムを開催した。それから早くも10年が経過した。

この10年の間に棚田地域の高齢化は進行し、棚田の維持・管理・経営は困難の度を増している。そのようななかで、「重要文化的景観」に選定された棚田の現況を知り、改めて棚田景観の意義や保全について考える機会としたい。あわせて今後の方向性についても示唆が得られれば幸いである。

(棚田学会編集委員会)